

平成28年度学校評価実施報告書

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①基礎学力の育成を軸に、社会的・職業的に自立できる人間の育成に向け、教育課程の工夫・改善に取り組むとともに、授業力を高めるための組織的取組を進める。 ②学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な活動の促進を図る。	①授業改善のための研究会を複数実施し、生徒が主体的に学習に取り組むための方策を講ずる。 ②学校行事の参加率を上げ、全校生徒で取り組める学校行事を目指す。	①研究会を開催するにあたり、外部の教育資源を積極的に活用する。 ①生徒が主体的に学習に取り組むために効果的なグループ学習のありかたを研究する。 ②行事開催前の期間における生徒の活動を重視し、応援団・クラス企画・有志等の活動を活性化する。	①外部の教育資源を活用した研究会を2回以上実施したか。 ①効果的なグループ学習のあり方を研究できたか。 ②全生徒行事参加率 ②応援団及び有志参加(文化祭・駅伝大会)の人数	①4月に昨年度の授業改善の取組を反映した「授業のヒント集」を作成した。外部から助言者を招いての学習活動研究会を3回実施し、授業改善に向けて組織的な取組を進めている。 ②体育祭の欠席率が3.3%と過去最低であり、非常に多くの生徒が熱心に参加した。	①「授業のヒント集」を活用して、協働的な学びにおけるさらに効果的なグループ学習のあり方を探る。 ②文化祭における生徒の主体的な参加に向けて、生徒の活動時間を効率的に確保するための手立てを工夫する。	・これまで田奈高校で困難な生徒の話を沢山聞いてきたが、そのような視点ばかりではなく、多くの生徒が頑張り、体育祭の欠席率がこのように低下しているのは素晴らしい。	・生徒の学習上の課題がますます大きくなる中で、田奈ゼミや、進学金曜講座など、ニーズのある生徒への支援は充実している。授業改善に向けての動きは進みつつあるが、さらに取組を進める必要がある。 ・行事への参加が増え、生徒の主体的な活動が増えている。	・授業のヒント集や、学習活動研究会など、田奈高校として取り組んでいることを更に進めていく。 ・教育課程については、学び直しの視点から検討を進めていく。
2 生徒指導・ 支援	①生徒一人ひとりが抱える課題を的確に把握し、きめ細かい個別支援を行うための仕組みづくりを進める。 ②部活動における生徒の主体的な活動に向けた支援を進める。	①教職員が生徒に対応する時間を確保し、個別理解に努めるとともに、的確な指導・支援を行えるよう、教職員の資質向上に努める。 ②部活動の加入率を全校生徒の4割程度にする。 ②部活動の活動場所に教職員が足を運び、指導・助言ができる環境を整える。	①会議・研修事業のスリム化を図る。 ①休み時間等授業時間以外における教職員と生徒とのコミュニケーション機会を充実する。 ①スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールキャリアカウンセラーなどの専門職を積極的に活用する。 ②部活動活性化に向け、顧問の指導時間の確保とともに年間を通して部活動で活躍する生徒の広報等を通じ、部活動の有益性等について意識付けする。 ②秋に第2回部活動週間を新設し、部活動を再度見学・体験することで入部への動機づけをする。	①会議・研修事業の回数、時間 ①生徒情報の入手及び共有の度合い ①スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールキャリアカウンセラー等の活用実績 ②部活動加入率	①一人ひとりの課題を把握してのきめ細かい支援は行われている。 ①従来から予定されている職員会議等は時間の短縮等が図れているが、生徒指導案件の増加に伴い、特別会議の時間が多くなっている。 ①□専門職の活用は活発にされており、専門職同士の情報共有も2週間に一度の打ち合わせを設定して行っている。 ①「子ども虐待の現状と課題」というテーマの校内人権研修会を行い、教職員の資質向上に努めた。 ②□生徒指導上の会議が多いため、部活動顧問の指導時間が十分に確保できない。 ②今年度の部活動の加入率は、4月段階で40.7%であり、目標は達成している。	①②生徒指導上の問題行動は落ち着きつつあり、今後は生徒指導にかかわる会議の減少が見込まれる。 ①様々な会議において、時間の更なる短縮を目指して、文書回覧や稟議等も活用していく。	・先生方の献身的な努力には頭が下がる。継続可能な仕組みづくりのために教職員が一丸となって対応している。学習支援、生徒支援、キャリア支援、活動支援の4本の柱のもと、専門職の活用や外部機関との連携を行いながら、学校としてできる限りの支援を行っている。 ・本校独自の取組を今後継続し、発展させていくためには、外部との連携を踏まえた人材育成が欠かせない。	・生徒一人ひとりが抱える課題が非常に大きくなっており、対応が難しい中で、生徒を支えるために教職員が一丸となって対応している。学習支援、生徒支援、キャリア支援、活動支援の4本の柱のもと、専門職の活用や外部機関との連携を行いながら、学校としてできる限りの支援を行っている。 ・本校独自の取組を今後継続し、発展させていくためには、外部との連携を踏まえた人材育成が欠かせない。	・クリエイティブスクールは、様々な困難を抱える生徒が集まりやすい仕組みになっている。発達障害、貧困、複雑な家庭環境等の多様な困難を抱える生徒をどう支えるかは、ひとつの学校だけで解決できる問題ではない。校内体制の更なる充実を目指すとともに、田奈高校から新たな仕組みづくりについて関係諸機関に対し、発信や提言を積極的に行っていくことが求められている。
3 進路指導・ 支援	生徒の実態やニーズを的確に把握し、個人の努力のみで達成できない社会的バリアの除去を含む視点からの支援を併せて行うとともに、そのための仕組みづくりを進める。	生徒一人一人がその個性に応じた進路を主体的に選択・実現できるよう条件整備を進める。	①進路情報室を就職希望者用の、S402教室を進路希望者用のスペースとして、それぞれ整備を進める。 ②3年間を見通して、外部機関との連携を強化しながら、「総合」や本校独自の体験プログラムによる実践的なキャリア教育を推進する。	①進路室等の生徒利用が拡大したか。 ②外部との連携が拡大し、生徒の社会的実践力向上に結びついていたか。 ②生徒個人の努力では解消できない課題の解消を支援し、進路希望実現に結びつけることができたか。	①進路室等の整備は進み、使いやすくなっている。 ②外部との連携による3年時での新たなキャリアプログラムを始めた。 ③外部との連携により新たに就職のための住居支援を始めた。	②生徒の抱える課題が益々大きくなっているため、引き続き新たな支援を模索していく。	・生活保護家庭の生徒の進路指導における田奈高校の新たな仕組み作り(住居支援)は、生徒の自立に向けて非常に大きな成果である。	・卒業生の進路未決定者が引き続き少ないレベルに留まっているのは、クリエイティブスクールとしての田奈高校の支援教育の大きな成果である。 ・住居支援などの就労支援システム、3年生対象の発展的なキャリア教育などにより、生徒の就労に向けた意識は高まり、実績に反映しつつある。	・今のキャリア支援センターの取組を更に発展させて、多くの生徒の自立につなげていく。 ・今の取組を継続・発展できるシステム作りのための人材育成を進めるとともに、関係機関と連携した人材確保に努めていく。

4	地域等との協働	地域の様々な社会資源との協働を通して、地域に根ざした学校づくりを進めるとともに、地域貢献活動を充実させる。	外部機関との連携を進め、生徒の社会的実践力を向上させる。	①緑法人会等地域の団体と連携し、キャリア教育、就労支援、地域貢献活動等を推進する。	①連携によって、社会的実践力が向上したか。	①緑法人会と連携してのキャリア教育、就労支援は益々充実して広がりを見せている。また、田奈ゼミ、ぴっかりカフェなど地域の様々な社会資源との協働が進み、地域行事への参加も少しずつ増えている。	①生徒の課題の解消のために更に社会資源との協働を活性化していく。地域貢献活動や地域行事への参加については更に働きかけが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業インタビューや緑法人会の面接練習の中で、田奈高校の生徒が本当に変わって来ているのを、地元企業が感じている。 ・今の方向性を進めながら、外部による支援をさらに充実させていけばよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の事業所にご協力頂いている1年生の職場見学体験は、10年を経過し、益々充実している。 ・緑法人会には、田奈高校の取組みをご理解いただき、職場見学体験、面接練習、就労支援など、様々な場面でご協力を頂いている。今後も連携を強めて、学校全体の教育活動を充実させたい。 ・田奈ゼミ、ぴっかりカフェにも多くのボランティアが参加して、生徒の支援を担って頂いている。今後も連携を深めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田奈ゼミに学習支援ボランティアとして参加している「カタリバ」との連携については、資金面の問題があり、継続可能な仕組みではない。生徒の自立に向けて、学習支援のためのボランティア確保は大きな問題であり、新たな方策も含めて検討したい。
5	学校管理 学校運営	学校が抱える課題に対して、教職員が意欲を持ち、主体的に教育に取り組むための「生き生きとした職場づくり」を図る。	組織的な業務の遂行をより推進するとともに、ベテラン教員のノウハウを若手教員に伝え、若手教員の育成を図る。	①組織的な学年運営を進め、生徒対応等において担任経験の少ない教員を学年団のベテラン教員が積極的にサポートする。 ②初任者研修においてベテラン教員のノウハウを伝える機会を増やす。	①学校が抱える課題に対して組織的に対応する体制がより充実したか。 ②初任者研修におけるベテラン教員のノウハウを伝える機会の回数。	①若手の教員が増える中、ベテラン教員が経験の少ない教員をサポートするための仕組みづくりを行った。また若手を支えるための校内研修会も実施した。 ②初任者研修校内研修の担当に総括教諭をあて、週に1回ノウハウを伝える機会を持った。また1年経験者、2年経験者をサポート役にし、初任者が相談しやすい環境を整えた。	①多くの教職員の異動時期に当たっており、今までの体制が十分に引き継がれるよう、研修の機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・田奈高校の課題は日本の課題と考えている。より多くの予算、人を配置することが必要で、田奈高校の取組みを応援していきたい。 ・今の素晴らしい取組みが継続していけるよう、学校組織の中で引継ぎをよろしく願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の抱える課題が益々困難になる中、多くの生徒が支援されて学校を居場所とし、進級・卒業に向けて頑張ることができている。困難な生徒の自立を目指すというクリエイティブスクールとしての使命を継承していくために、教職員全体で生徒の困難の共有に努めてきたが、今後さらに共有の機会を増やしていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員同士のコミュニケーションを更に増やし、オン・ザ・フライミーティングを充実させる中で、クリエイティブスクールとしての使命、生徒支援のノウハウを継承していく。